



個人投資家向け 説明会



2016年9月14日

<http://www.artner.co.jp/>



I 会社概要

II 第55期('17年1月期)第2四半期決算概要

III 第55期('17年1月期)業績予想、配当予想

IV 中期経営計画の概要

V 中期経営計画(2016年1月期～2018年1月期)の進捗

VI 参考資料

[設立] 1962年9月18日 [代表者] 代表取締役社長 関口相三
 [株式] 東京証券取引所JASDAQ(スタンダード) (証券コード:2163)
 2007年10月 株式上場 [資本金] 2億3,828万4,320円 [社員数] 757名
 [本社] 東京本社／大阪本社 [事業拠点] 横浜、宇都宮、大阪、名古屋

1986年 労働者派遣法施行

1950～70年代

1953年
有限会社関口興業社創業



1962年
株式会社大阪技術センター設立

1980年代

1989年 関東事業所開設



1990年代

1992年
株式会社大阪技術センター30周年



1998年
株式会社アルトナーに社名変更

2000年代

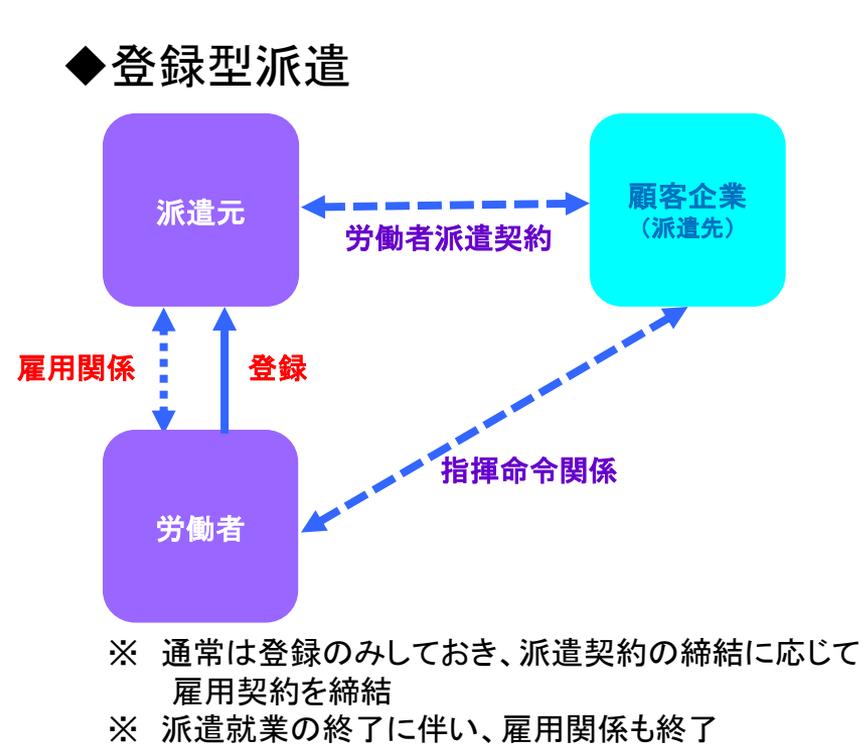
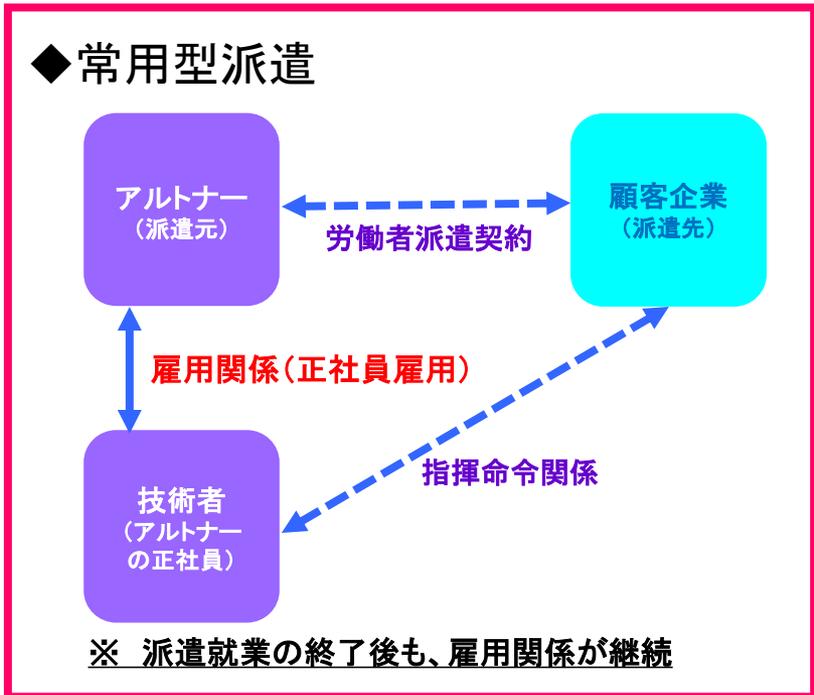
2007年
JASDAQ市場上場



2012年
上場5周年
設立50周年

2015年
中期経営計画スタート

<http://www.artner.co.jp/>



◆ 派遣労働者数(※)

(※)厚生労働省『平成26年度 労働者派遣事業報告書の集計結果』

区分	雇用形態	人数(人)	構成比(%)
常用型派遣	無期契約(正規)、有期契約(非正規)	831,138	31.6
登録型派遣	有期契約(非正規)	1,799,187	68.4
合計		2,630,325	100.0

◆電気機器

オムロン、キヤノン、東芝、
パナソニック、富士電機、矢崎部品、他

◆輸送用機器

トヨタ自動車、日産自動車、
富士重工業、本田技術研究所、他

◆精密機器

島津製作所、テルモ、ニコン、他

◆機械

クボタ、小松製作所、ディスコ、他

◆情報・通信

日立超LSIシステムズ、他

※株式一部・二部上場企業
及び優良中堅企業 取引実績約400社

'16年1月期		
1	本田技術研究所	
2	ニコン	
3	パナソニック	
4	テルモ	
5	矢崎部品	
6	富士重工業	
7	日立超LSIシステムズ	
8	住友電気工業	
9	トヨタ自動車	
10	ダイキンレクザムエレクトロニクス	
	実績 (千円)	百分比 (%)
上位10社 計	2,380,439	50.1
その他 計	2,366,422	49.9
合計 計	4,746,861	100.0

※敬称略

※「その他」売上除く

◆主な出身学部・大学院、経歴

- ・工学部、理工学部、理学部、情報工学部などの大学生（理系）、大学院生（理系）
- ・業務経験のある中途入社者

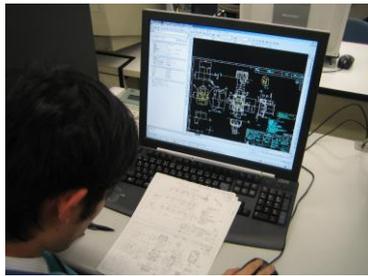
◆求める人物像

- ・短期間でお客様と馴染んで業務を行う必要があるため、コミュニケーション能力を重視。

◆主な手法

- ・全国の理工系大学の就職支援担当者・教授からの人材紹介
- ・アルトナーの技術者が出身大学を訪問し、後輩の学生に体験談や会社の充実度を伝える
- ・求人Webサイトでの情報掲載
- ・大学内外でのセミナー開催 等

◆ 製造業のバリューチェーン



◆ 製造メーカーの組織図(例)



製造メーカーに対して**設計・開発**に特化した専門的技術サービスを提供

2次元CAD・3次元CADを使用し
自動車や家電メーカーなどで
設計・開発業務を行う。



メーカーの製品において、
心臓部となる回路基盤の設計や、
電子系の信頼性評価業務を行う。

ハードの動作制御の開発、
システム並びにアプリケーション
ソフトウェアの開発などを行う。

■成長する製品・システムに対する当社の技術サービス提供事例

エコカー

エコカー充電器の開発業務

機械設計
開発

リチウムイオン電池の開発業務

機械設計
開発

電気・電子
設計開発

インバーターの評価業務

駆動用モーターの開発業務

機械設計
開発

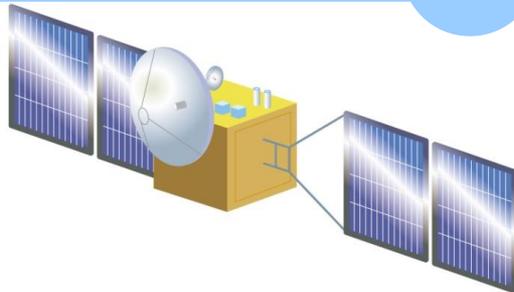
ソフトウェア
開発

ブレーキ制御システムの開発・評価業務

人工衛星

人工衛星に関連する検査装置の開発業務

電気・電子
設計開発



スマートフォン

基板の試作・評価・解析業務

電気・電子
設計開発



太陽光蓄電システム

エネルギーシステムの開発業務

ソフトウェア
開発



<http://www.artner.co.jp/>

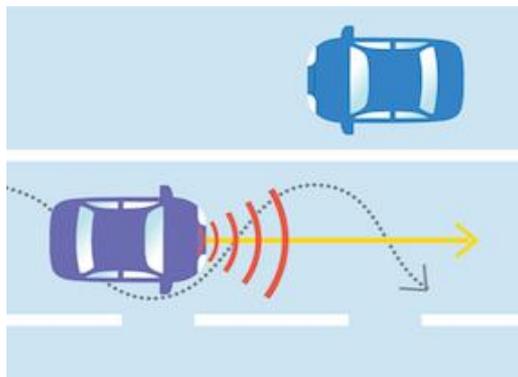
◆ 駐車支援システム



電気・電子設計開発

- ・自動ブレーキ、アクセル制御の開発プロジェクトの評価計画立案。
- ・テストコースでの走行評価。

◆ レーンキープアシスト



電気・電子設計開発

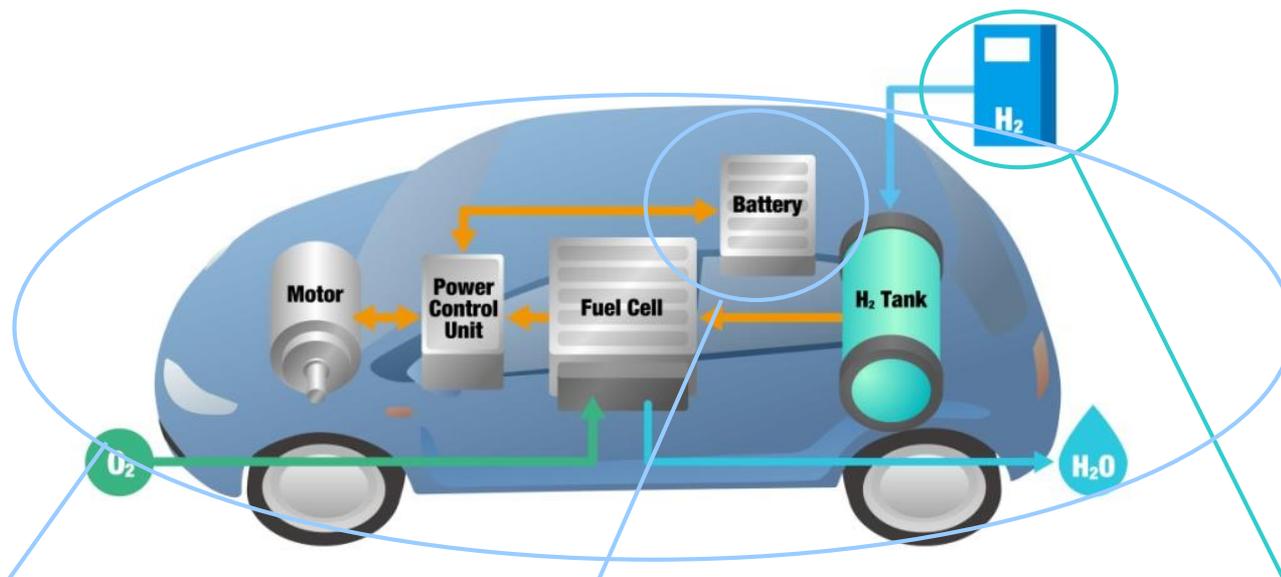
- ・ステアリング補助、運転負荷軽減の制御ソフトウェア設計書作成、テスト検証。

◆ 安全運転支援システム



ソフトウェア開発

- ・交通情報通信、車々間通信の先行研究開発。
- ・仕様等を検討し、各種プログラムの開発。



電気・電子設計開発

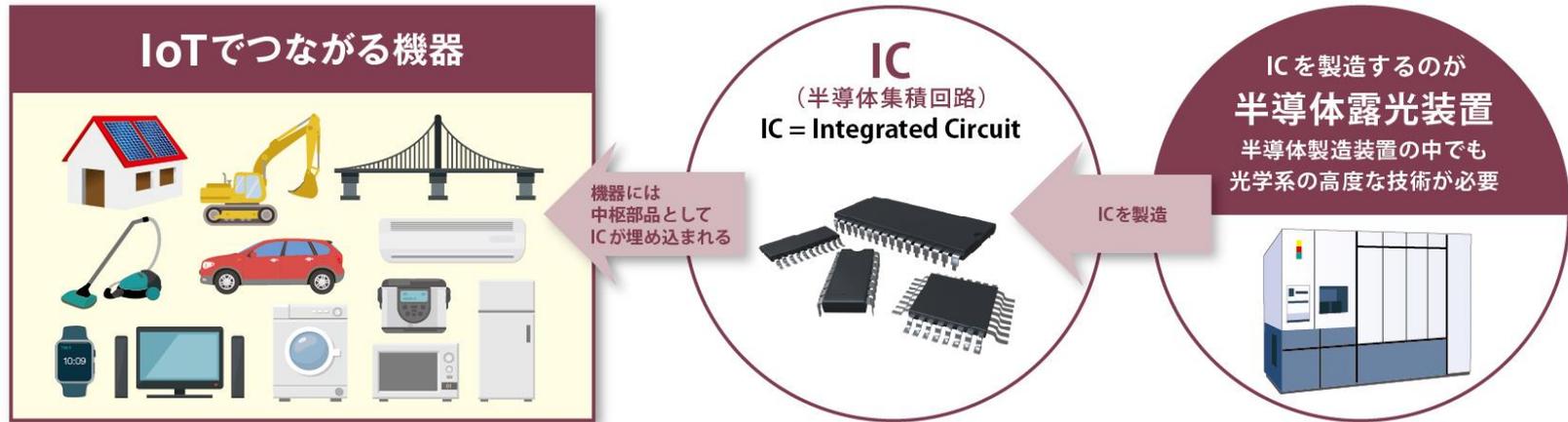
- ・燃料電池自動車の実車におけるハード・ソフトウェアの仕様確認及び、基本性能の確認・解析等。

電気・電子設計開発

- ・自動車用燃料電池の設計開発における試作、評価計画の立案、実験評価、レポート作成。

ソフトウェア開発

- ・水素ステーション設計開発における、ソフトウェア設計及びシステムテスト。



機械設計開発

- ・温調機筐体、
温調機ユニットに
付随する配管、
配線中継ユニット等
の構想仕様、及び、
基本設計。

電気・電子設計開発

- ・レンズコントロール
システムに使用する
制御ユニット、
制御基板の
設計仕様書の作成。

ソフトウェア開発

- ・計測データを基に、
露光精度を補正
するソフトウェアの
構想仕様、及び、
基本設計。

I 会社概要

→ II 第55期('17年1月期)第2四半期決算概要

III 第55期('17年1月期)業績予想、配当予想

IV 中期経営計画の概要

V 中期経営計画(2016年1月期～2018年1月期)の進捗

VI 参考資料

◆市場環境

- ・輸送用機器分野における水素エネルギー技術を活用した燃料電池自動車、自動運転技術を備えた先進安全自動車等の開発。
- ・精密機器分野におけるIoT (Internet of Things) の市場拡大に伴う次世代半導体の製造装置の開発。
上記の開発ニーズの活発化により、当社への技術者要請が増加。
- ・情報通信分野において、顧客企業への提案強化に取り組む。

◆売上高

技術者派遣事業において、稼働人員、技術者単価が、前年同期を上回ったことにより、増収。

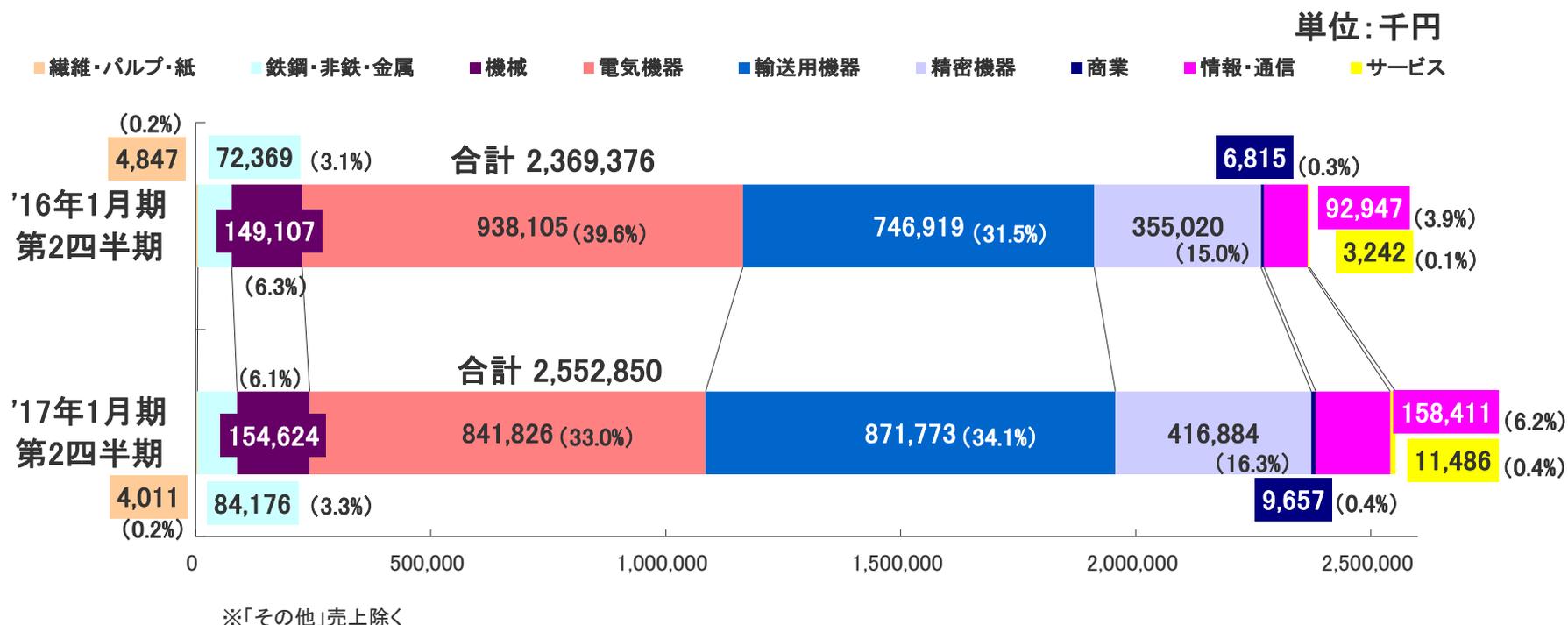
◆利益面

売上高の増加に加え、稼働率が高水準で推移した影響もあり、増益。

売上高は前年増減率8.0%増、営業利益は0.2%増、
経常利益は3.6%増、四半期純利益は7.4%増。営業利益率は11.7%。

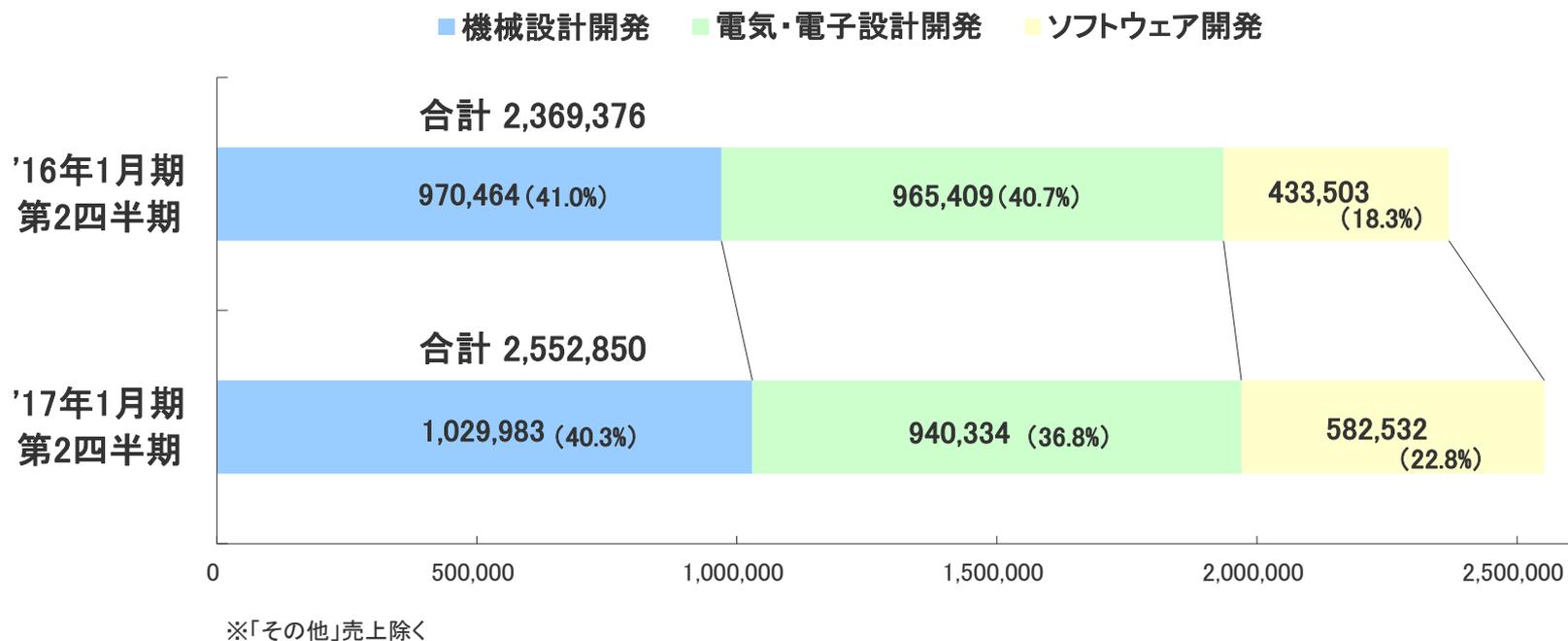
	'16年1月期 第2四半期		'17年1月期 第2四半期		前年 増減値 (千円)	前年 増減率 (%)
	実績 (千円)	百分比 (%)	実績 (千円)	百分比 (%)		
売上高	2,373,501	100.0	2,563,059	100.0	189,557	8.0
売上原価	1,498,026	63.1	1,638,100	63.9	140,073	9.4
売上総利益	875,474	36.9	924,959	36.1	49,484	5.7
販管費	577,211	24.3	625,979	24.4	48,768	8.4
営業利益	298,263	12.6	298,979	11.7	716	0.2
経常利益	294,633	12.4	305,195	11.9	10,562	3.6
四半期純利益	185,651	7.8	199,408	7.8	13,756	7.4

全体における構成比が83.4%を占める
 ■ 電気機器、■ 輸送用機器、■ 精密機器において、
 それぞれ、前年増減率10.3%減、16.7%増、17.4%増。

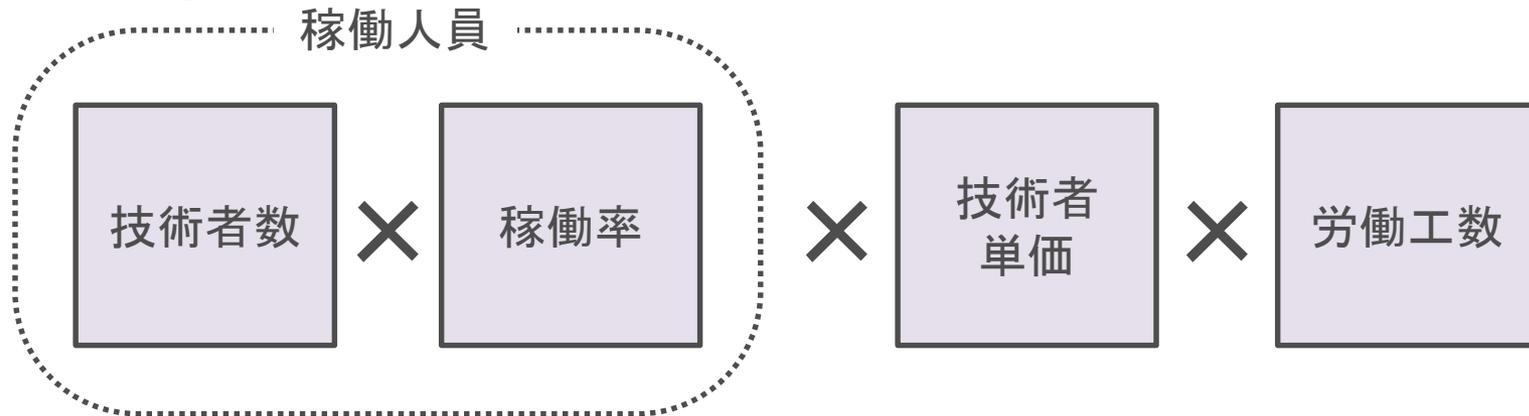


■ 機械設計開発は前年増減率6.1%増、
■ 電気・電子設計開発は2.6%減、
■ ソフトウェア開発は大きく伸びて34.4%増。

単位：千円



◆ 売上高



◆ 売上原価

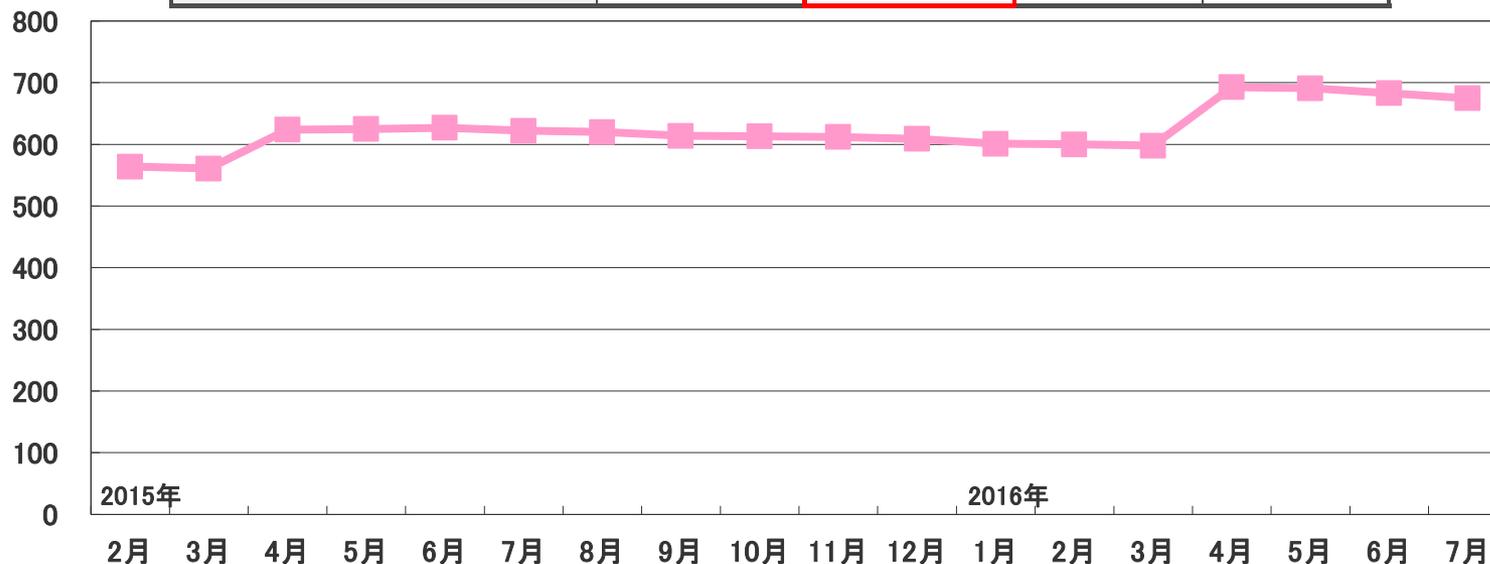
- ・顧客企業に配属中の技術者の労務費等

◆ 販売管理費

- ・社内にて教育研修(待機)中の技術者の労務費、スタッフ職の労務費
- ・採用活動費等

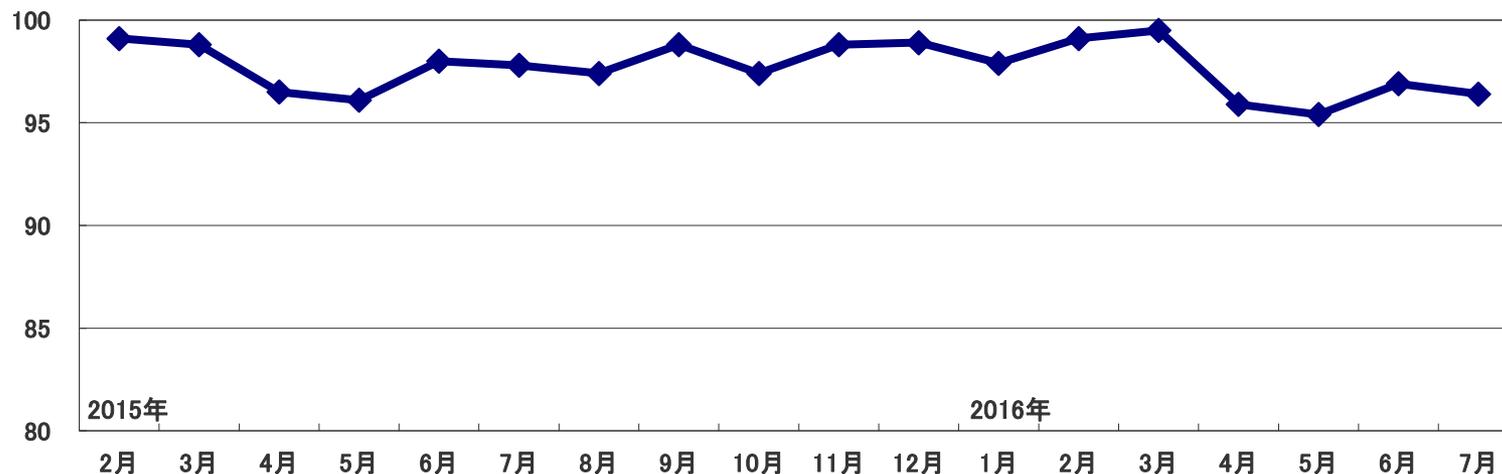
2016年4月に新卒技術者が103人入社し、
キャリア採用が計画通り進捗。

	'16年1月期 第2四半期 平均 (人)	'17年1月期 第2四半期 平均 (人)	前年 増減値 (人)	前年 増減率 (%)
期末技術者数	604	657	53	8.7



輸送用機器、精密機器等の顧客企業からの開発ニーズが、
安定的に推移。

	'16年1月期 第2四半期 平均 (%)	'17年1月期 第2四半期 平均 (%)	前年 増減値 (pt)
稼働率	97.7	97.2	▲ 0.5



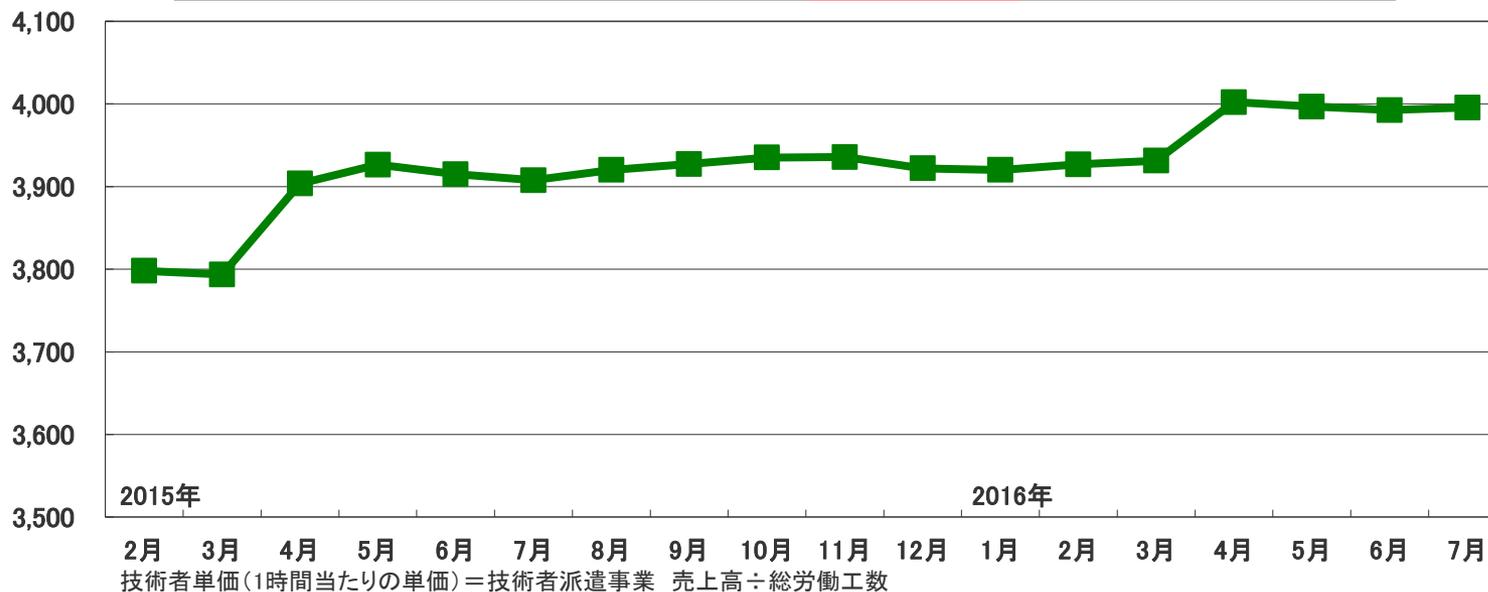
稼働率(%) = 派遣稼働人員数 ÷ 派遣対象在籍人員数

※ 新卒技術者等の期中入社者は、配属までは含んでおりません。

※ HR事業部門は含んでおりません。(HR事業部門…技術者の採用・研修を目的とする。)

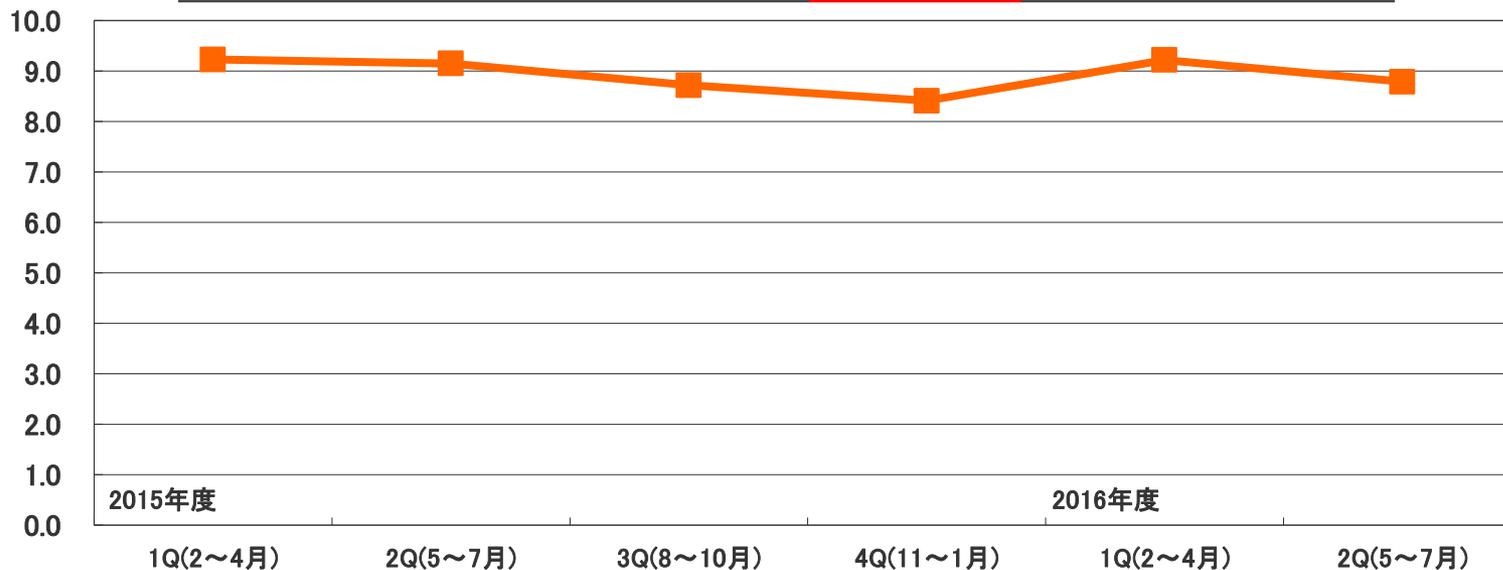
高付加価値な業務への配属進捗に加え、2016年4月入社の新卒技術者の初配属単価が高水準で推移。

	'16年1月期 第2四半期 平均 (円)	'17年1月期 第2四半期 平均 (円)	前年 増減値 (円)	前年 増減率 (%)
技術者単価	3,874	3,973	99	2.6



参加プロジェクトでの安定的な業務ボリュームにより、
前年同期と同水準で推移。

	'16年1月期 第2四半期 平均 (h)	'17年1月期 第2四半期 平均 (h)	前年 増減値 (h)	前年 増減率 (%)
1日当たり労働工数	9.19	9.00	▲ 0.19	▲ 2.1



I 会社概要

II 第55期('16年1月期)第2四半期決算概要

 III 第55期('17年1月期)業績予想、配当予想

IV 中期経営計画の概要

V 中期経営計画(2016年1月期～2018年1月期)の進捗

VI 参考資料

◆第2四半期実績の業績予想（通期）に対する進捗率

売上高51.3%、営業利益59.8%、経常利益60.8%、当期純利益59.7%。

◆業績予想（通期）

上期の4月1日の顧客企業との技術者単価の契約改定は、当初の計画を上回る。上期の契約改定後の単価は、通常、下期も同水準で推移。よって、通期業績は順調に推移する見込み。

	'17年1月期 第2四半期		'17年1月期 通期		'17年1月期 第2四半期		第2四半期 業績予想 進捗率 (%)	通期 業績予想 進捗率 (%)
	業績予想 (百万円)	百分比 (%)	業績予想 (百万円)	百分比 (%)	実績 (百万円)	百分比 (%)		
売上高	2,461	100.0	5,000	100.0	2,563	100.0	104.1	51.3
営業利益	236	9.6	499	10.0	298	11.7	126.3	59.8
経常利益	238	9.7	501	10.0	305	11.9	128.2	60.8
当期純利益	158	6.4	334	6.7	199	7.8	125.9	59.7

今期の配当は、現時点での業績予想等を考慮し、1株当たり40円（中間配当20円、期末配当20円）を予定。配当性向は31.8%。

	年間配当金			配当利回り (%)	配当性向 (%)	純資産 配当率 (DOE) (%)
	第2四半期末	期末	合計			
'16年1月期	15円00銭	20円00銭	35円00銭	2.95	33.6	7.4
'17年1月期(予想)	20円00銭	20円00銭	40円00銭	3.73	31.8	—

配当利回り(%) = 1株当たり個別配当金(合計)÷株価(期末/終値)×100
 '16年1月期 期末(2016年1月29日)終値…1,185円 / '17年1月期 第2四半期 期末(2016年7月29日)終値…1,073円

配当性向(%) = 1株当たり個別配当金(合計)÷1株当たり当期純利益×100

純資産配当率(%) = 1株当たり個別配当金(合計)÷(期首1株当たり純資産+期末1株当たり純資産)÷2×100

I 会社概要

II 第55期(’16年1月期)第2四半期決算概要

III 第55期(’17年1月期)業績予想、配当予想

→ IV 中期経営計画の概要

V 中期経営計画(2016年1月期～2018年1月期)の進捗

VI 参考資料

◆社是

精神の追求 智識の追求 創造の追求

◆経営理念

「 エンジニアサポートカンパニー 」

— 私達は技術者の夢をサポートします —

人をつくり 技術を育み 技術者を通じ社会に貢献し
全従業員の幸福と会社の反映を目指します

※「幸福」には、人から与えられるのではなく、自らが進んで行動することで「しあわせ」になるという思い、「反映」には、相手を照らすことで自らにも反射し互いに輝くという思いを込めております。

◆社名の由来

ARTNER

ART

PARTNER

アルトナーという社名には、
・技術を大きく広域に捉え、アートとして捉える。
・お客様のパートナーとしてあり続ける。
この2つの意味が込められています。

事業モデルを刷新し、リーマンショックからの
本格回復を期し、更なるステージアップに挑む

より良い採用こそがすべての入り口

2013年2月より、4事業部門を設置

利益単価の回復

技術者数の回復

※利益単価 = 当社内で、独自に管理している技術者1人当たり、1時間当たりの単価に占める利益

◆ 顧客企業(メーカー)

市場動向

産業構造の転換により、これまで以上に、設計開発プロジェクトの目的に応じて派遣技術者を選別する傾向。

ニーズ

- ・技術者をハイエンド、ミドル、ローエンドで選別したい。
- ・技術者の実力を見極めた上で、正社員雇用したい。

◆ 技術者(学生、転職希望者)

市場動向

- ・中長期的には少子化の影響もあり、メーカー、同業他社と優秀な技術者の獲得競争激化。
- ・働き方の価値観が多様化。

ニーズ

- ・ハイレベルな環境でスキルを磨き高報酬を得たい。
- ・勤務先・地域を限定、または地元に戻りたい。
- ・技術者派遣で力をつけて、いずれはメーカーに転職したい。

顧客企業と技術者ニーズをマッチングさせ、中期経営計画を推進するため、4事業部門を設置。

HA
ハイパーアルトナー

ハイパーアルトナー事業部門
成果報酬型のエキスパートによるハイエンド業務対応

EG
エンジニア

エンジニア事業部門
地域限定希望者によるハイエンド～ローエンド業務対応

EA
エンジニア
エージェンシー

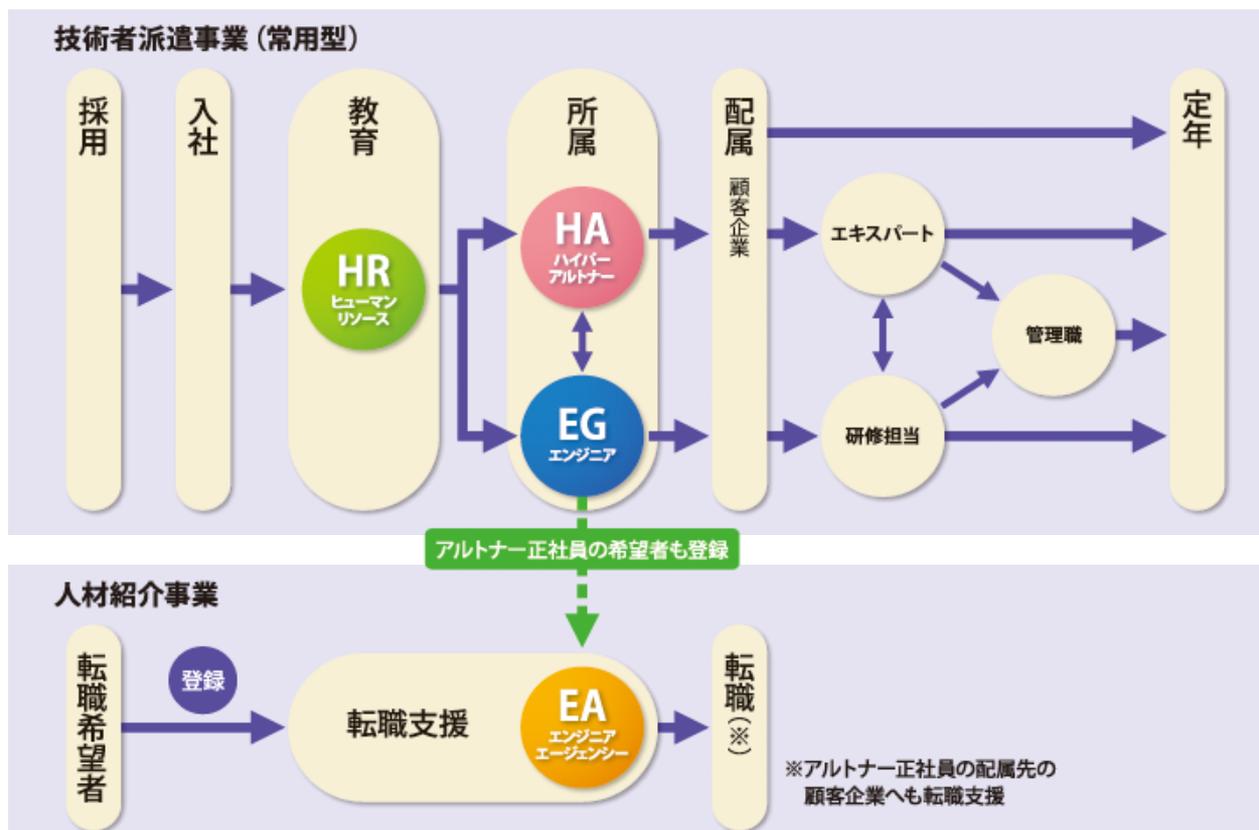
エンジニアエージェンシー事業部門
メーカーへの人材紹介、キャリア採用、新卒採用業務対応

HR
ヒューマンリソース

ヒューマンリソース事業部門
教育業務対応

■4事業部門の相関図、アルトナーのワンストップ体制

社内公募制度、人材紹介制度等の各種制度にて、
4事業部門の連携を図る。



I 会社概要

II 第55期('17年1月期)第2四半期決算概要

III 第55期('17年1月期)業績予想、配当予想

IV 中期経営計画の概要

→ V 中期経営計画(2016年1月期～2018年1月期)の進捗

VI 参考資料

◆ 基本方針

事業モデルを刷新し、リーマンショックからの
本格回復を期し、更なるステージアップに挑む

◆ 目標設定の方針

現状の技術者の質を維持しつつ、絶対数を増やしていくことが、
当社のさらなる業績向上のためには不可欠。

◆ 基本目標

利益単価の向上

’18年1月期には、全社ベースで、’15年1月期比24%増を目指す。

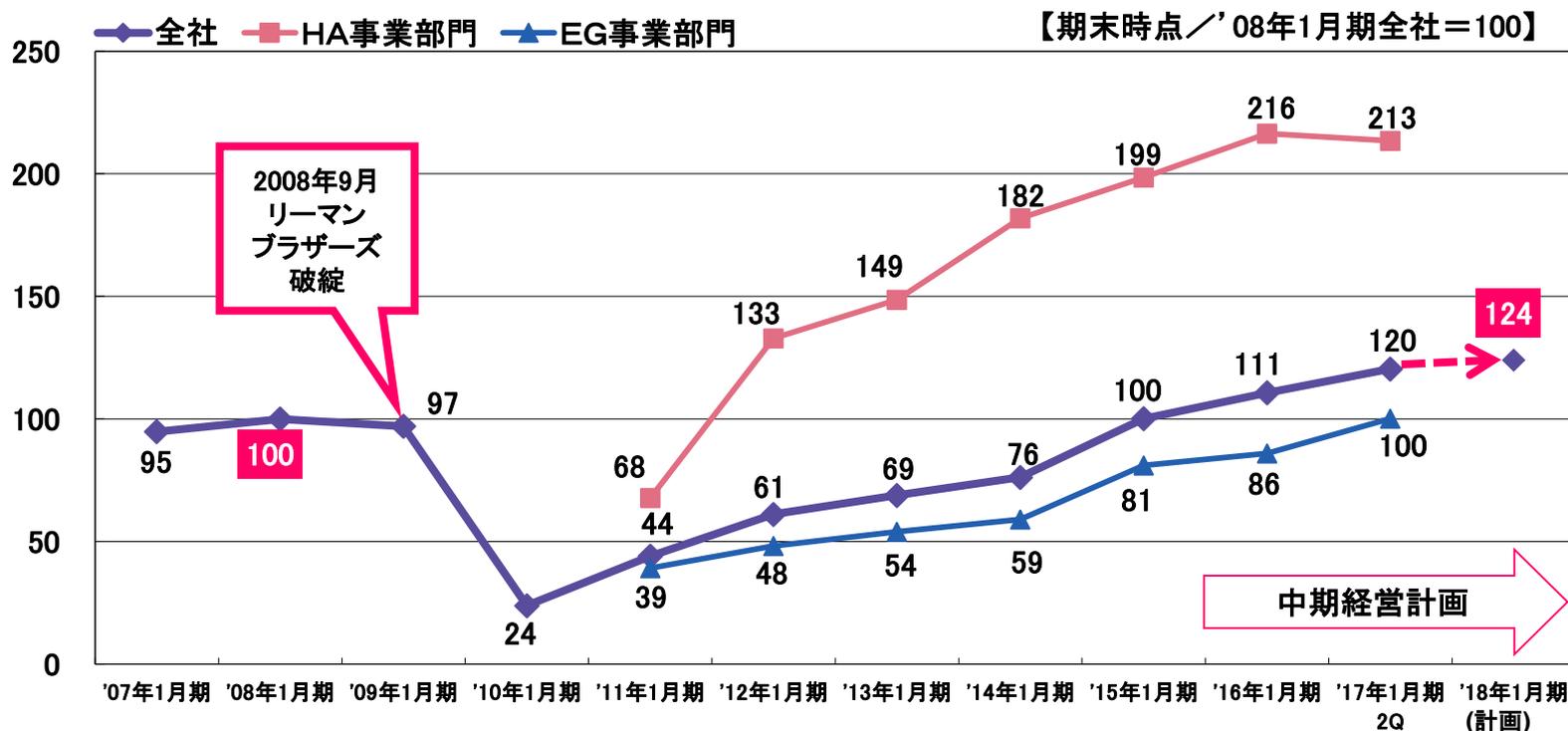
◆ 基本目標

技術者数の回復

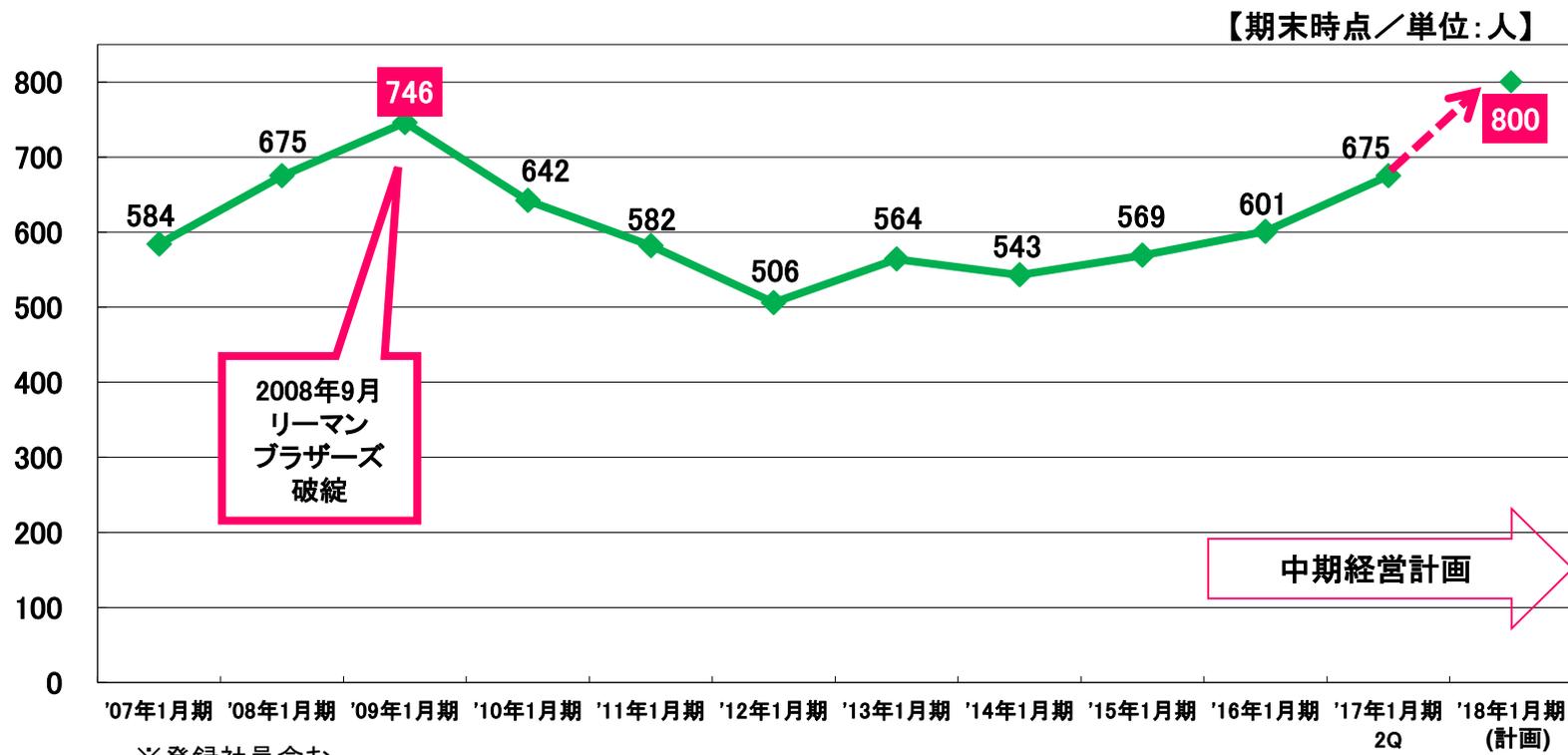
新卒採用、キャリア採用、定着率向上により、’18年1月期には、
リーマンショックでの減少前を上回る水準である800人規模を目指す。

※利益単価 = 当社内で、独自に管理している技術者1人当たり、1時間当たりの単価に占める利益

'17年1月期 第2四半期末の利益単価は、全社ベースで、
'16年1月期末の実績、'17年1月期の目標数値を上回る。

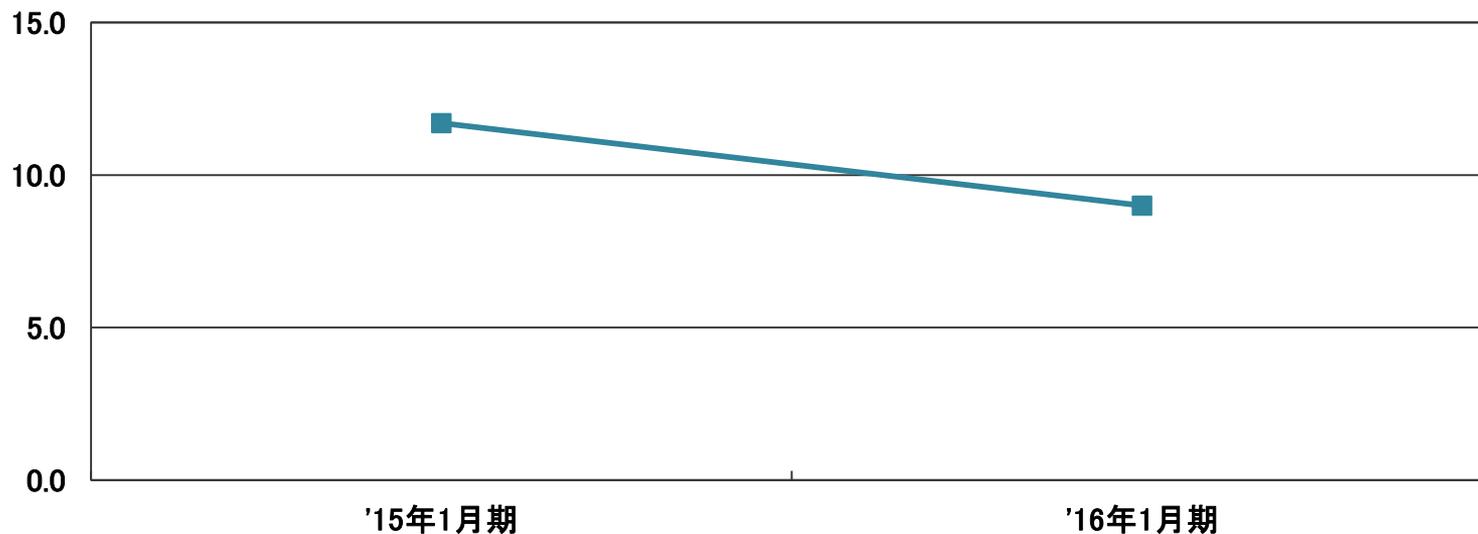


'17年1月期 第2四半期末の技術者数は、増加基調で推移。
下期も、キャリア採用の進捗、定着率の向上に取り組む。

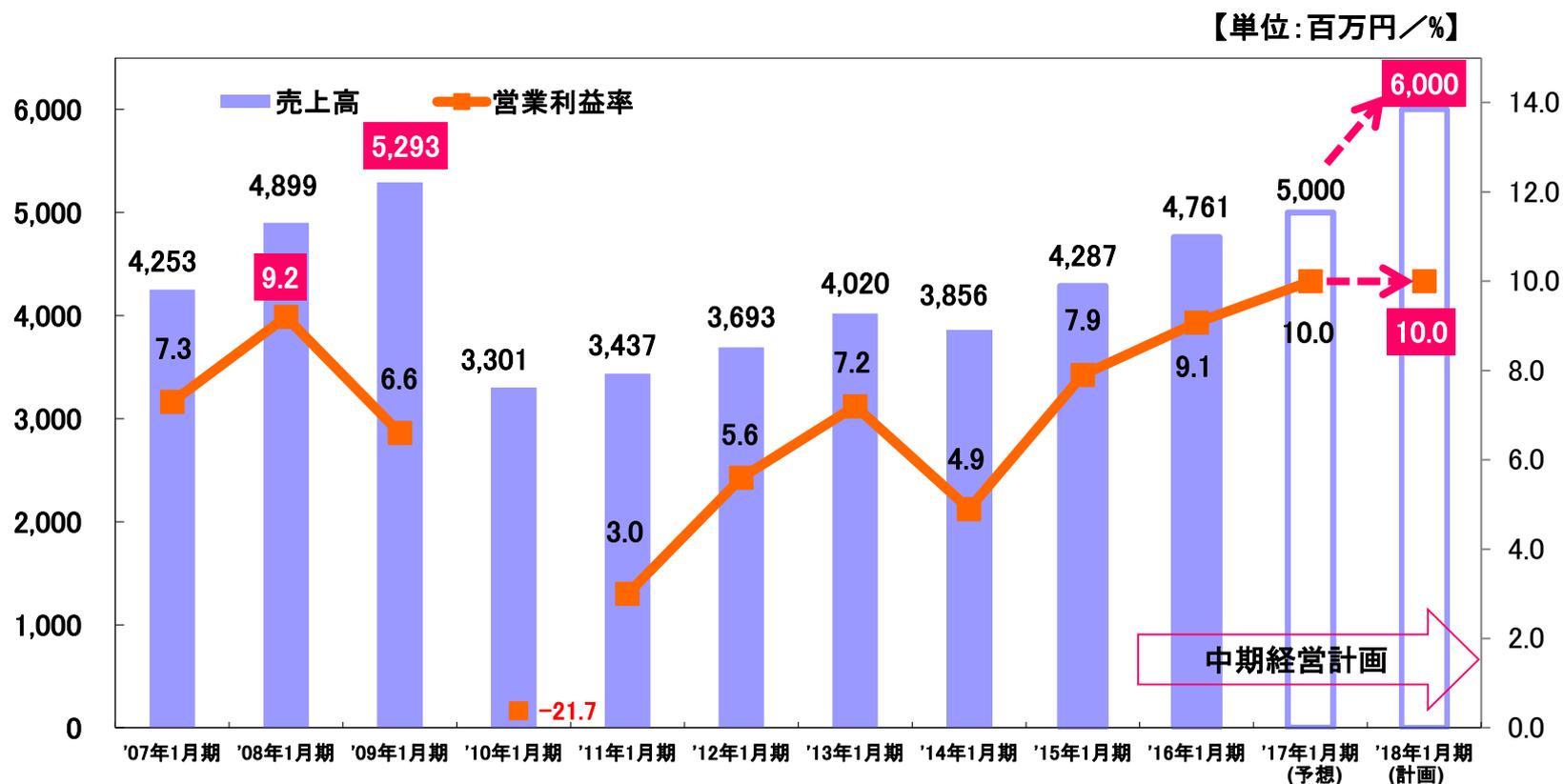


4事業部門を設置したことにより、離職率が低減。
引き続き、技術者とのコミュニケーションに努めていく。

	'15年1月期 (%)	'16年1月期 (%)	前年 増減値 (pt)
離職率	11.7	9.0	▲ 2.7



過去最高の売上高52億('09年1月期)、営業利益率9.2%('08年1月期)を更新し、'18年1月期には売上高60億円、営業利益率10%を目指す。



EG事業部門

縦軸の差別化戦略のマッチング検証・精度向上

開発業務レベルで下記のセグメント化を実施。マッチング精度を高める。

- ・ハイバリューマーケット
- ・ワイドバリューマーケット
- ・プロダクトバリューマーケット

採用活動

マーケットインを基本方針

水素エネルギー技術分野においては、顧客ニーズに基づき、機械、電気・電子、ソフトウェアに加えて、化学的基礎知識を持った技術者の確保。



競合他社との差別化を図る。

新卒採用

就職フェアや大学研究室でのアプローチをはじめ、あらゆる手段を講じて、学生との接触機会を増やし、より多くの採用に努める。

キャリア採用

新たな採用チャネルとして、ポスドク(博士研究員)の採用も、視野に入れる。

当社は、時代に合わせて常に進化し続けることを目指す。「エンジニアサポートカンパニー」という経営理念以外は、全て変えていいと考えている。働く方の感性、価値観は変化する。常に社内体制を見直し、時代、ニーズに対して、柔軟に対応していく。

I 会社概要

II 第55期('17年1月期)第2四半期決算概要

III 第55期('17年1月期)業績予想、配当予想

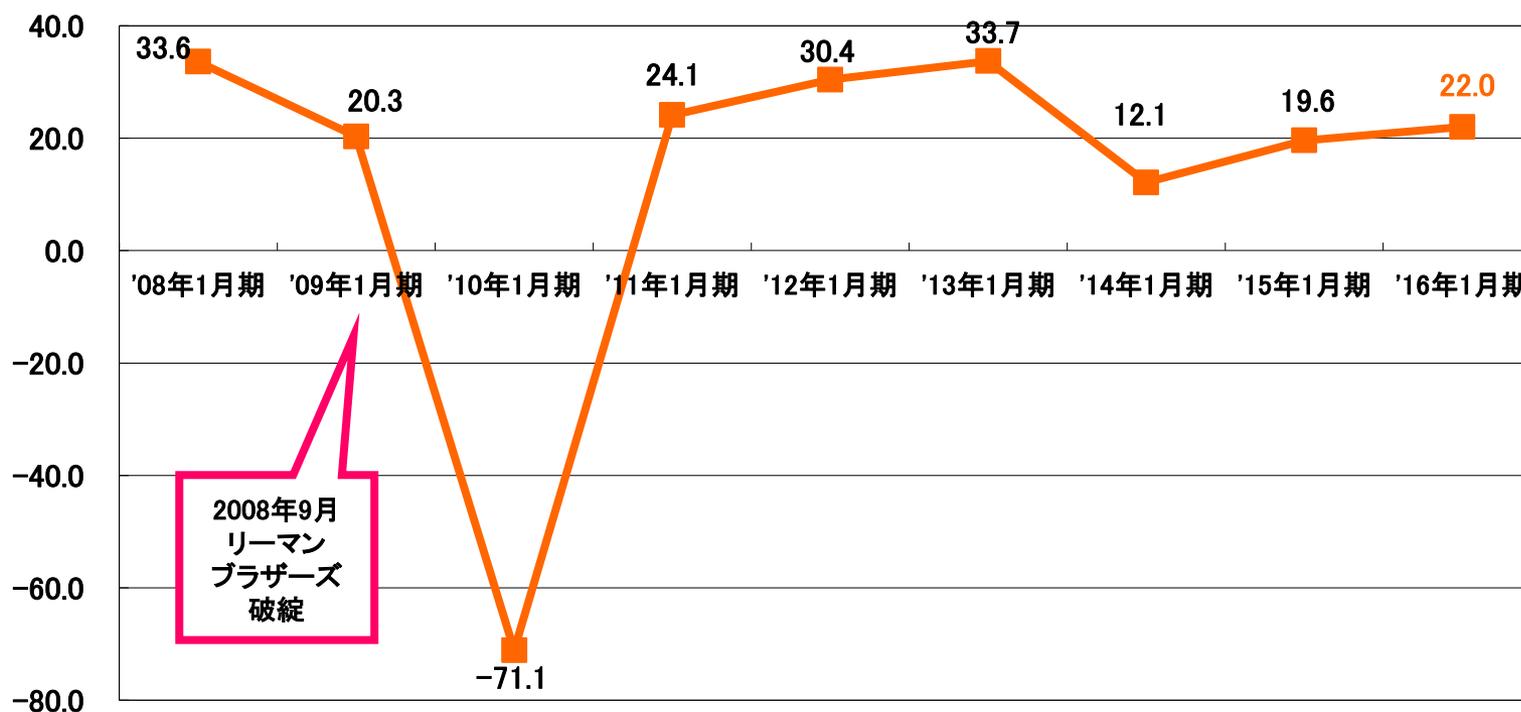
IV 中期経営計画の概要

V 中期経営計画(2016年1月期～2018年1月期)の進捗

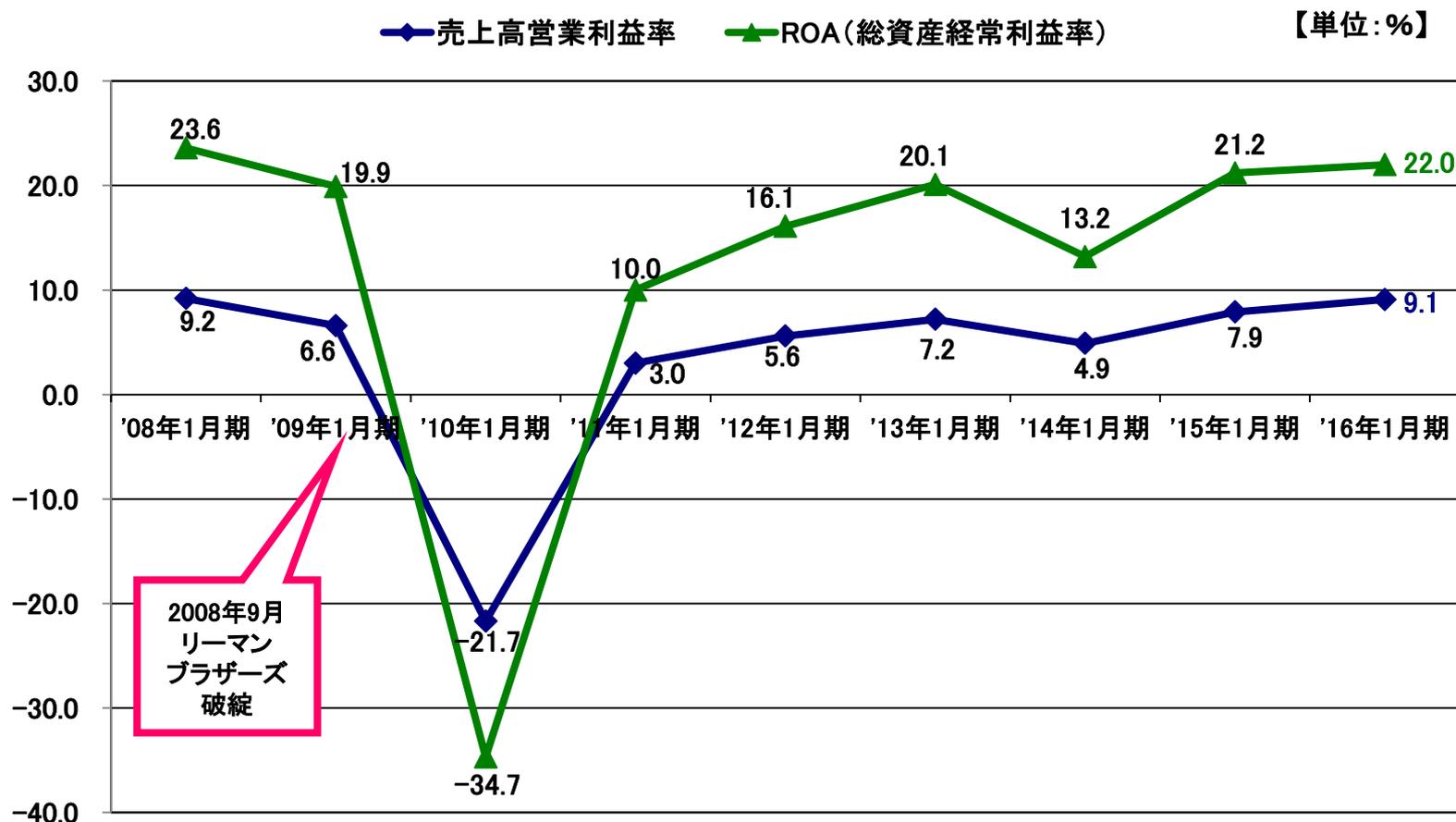
→ VI 参考資料

直近5年平均…23.6%、'16年1月期…22.0%。
より高水準を引き続き目指す。《参考》東証平均…7.50%(2015年度)

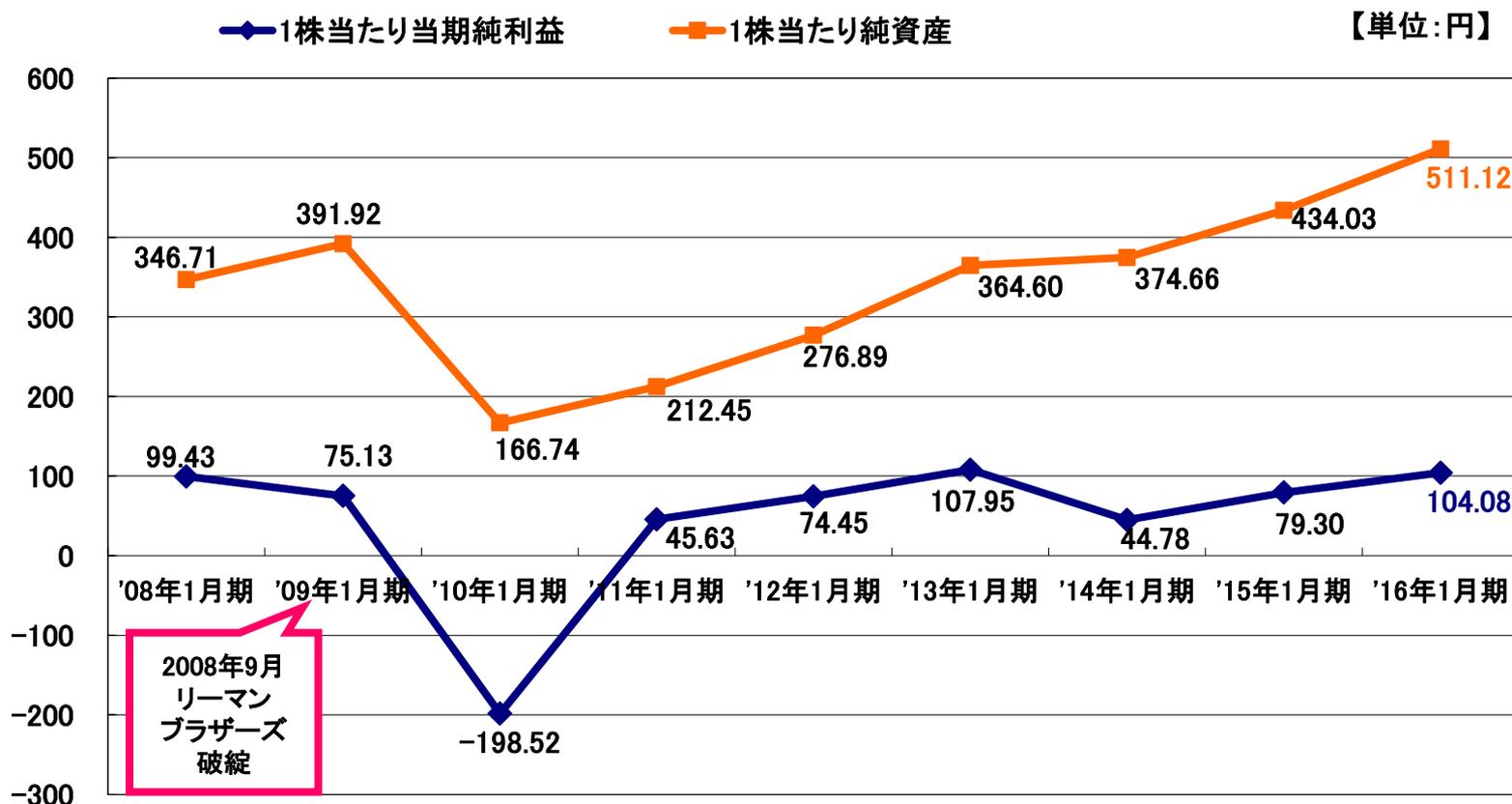
【単位：%】



■売上高営業利益率、ROA(総資産経常利益率) 推移



■ 1株当たり当期純利益、1株当たり純資産 推移



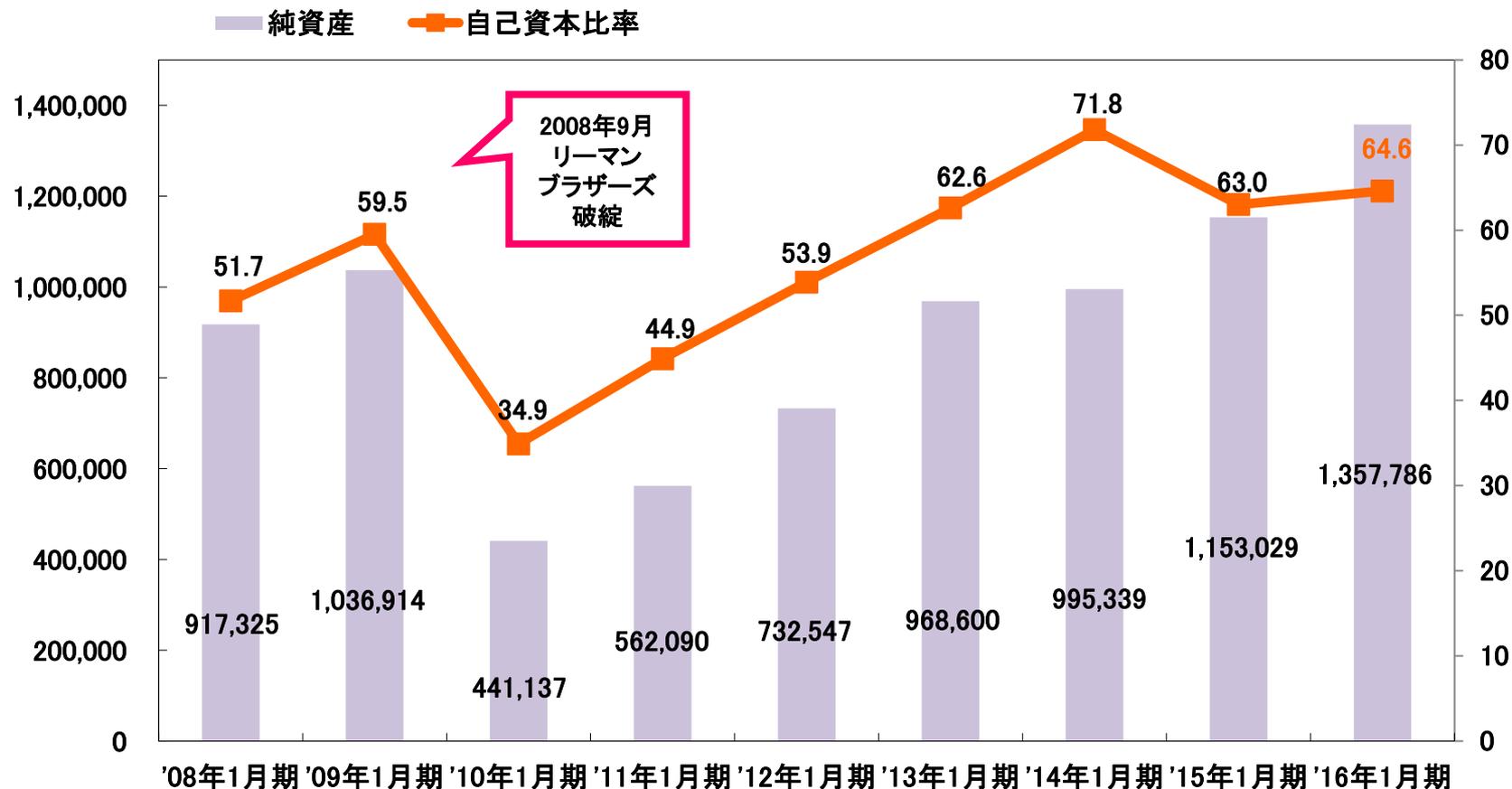
※2007年6月22日をもって株式1株につき4株の分割を行っております。

※2011年2月1日をもって株式1株につき3株の分割を行っております。

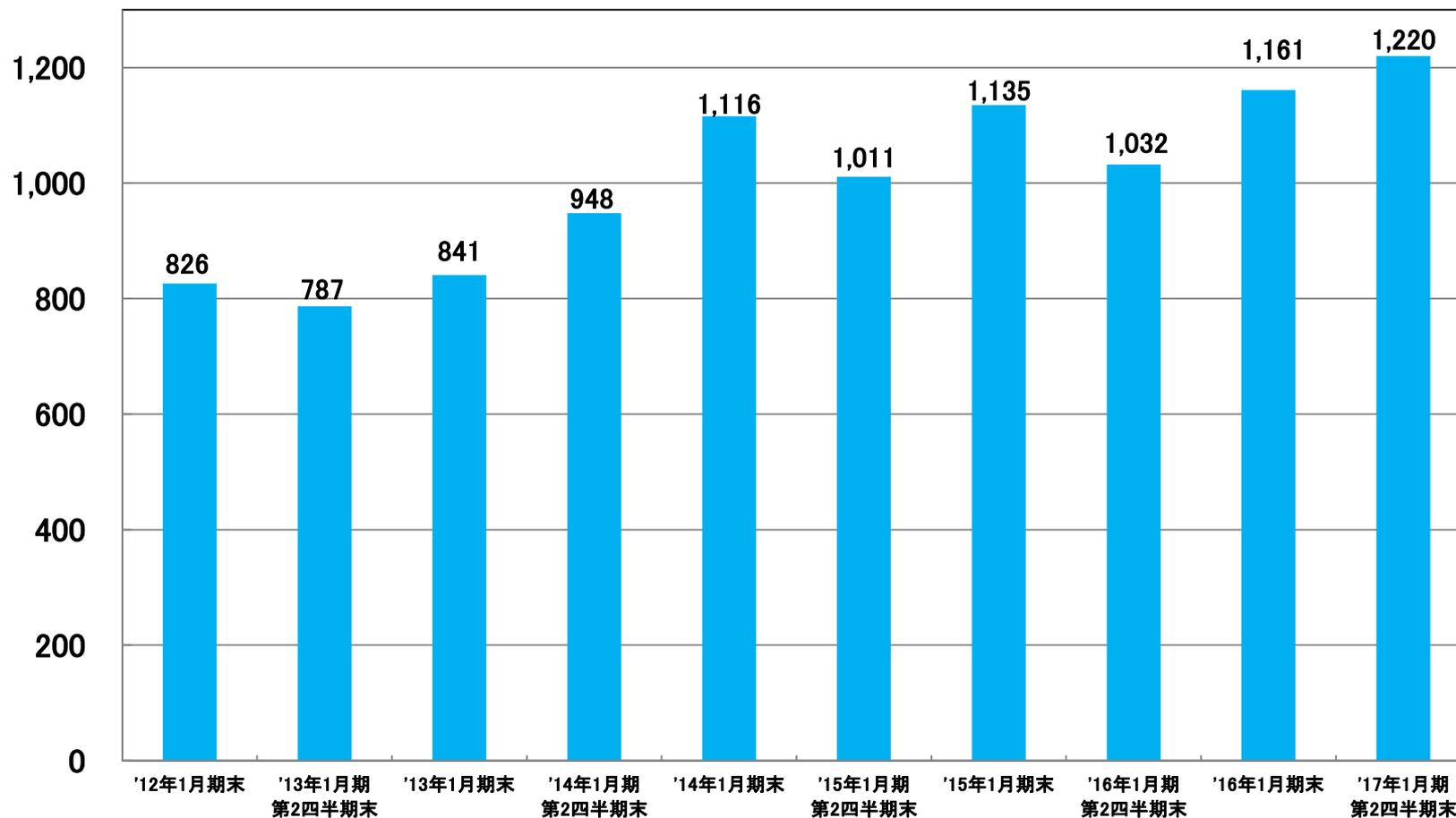
当該株式分割に伴う影響を加味し、'11年1月期以前は、遡及修正を行った場合の「1株当たり当期純利益」「1株当たり純資産」を表記しております。

■ 純資産、自己資本比率 推移

【単位：千円、％】



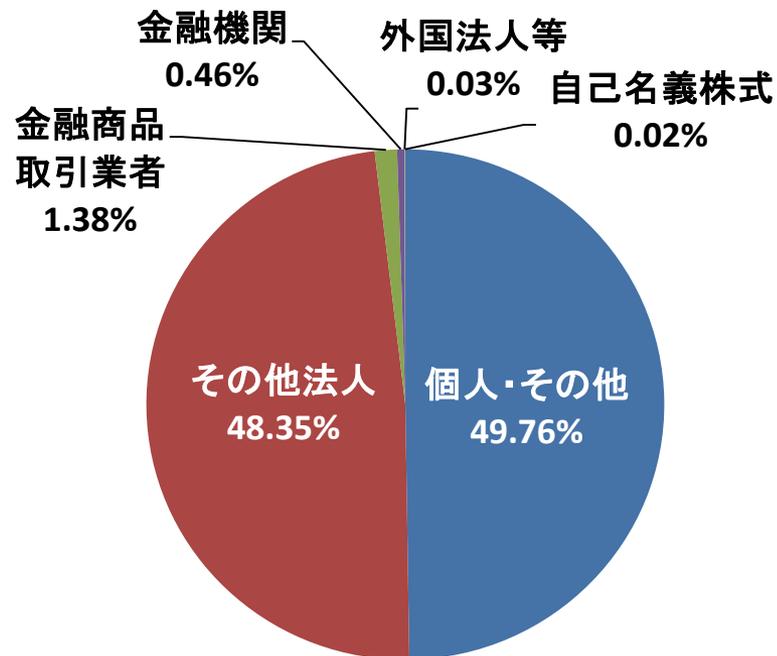
【単位：人】



<http://www.artner.co.jp/>

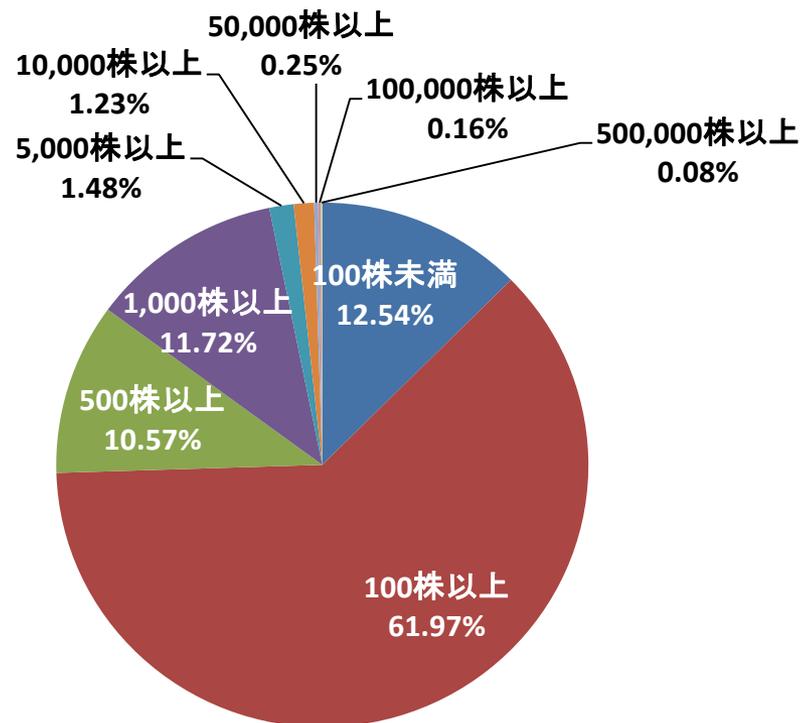
Copyright(C) 2016 Artner Co. All Rights Reserved

◆所有者別の株式分布

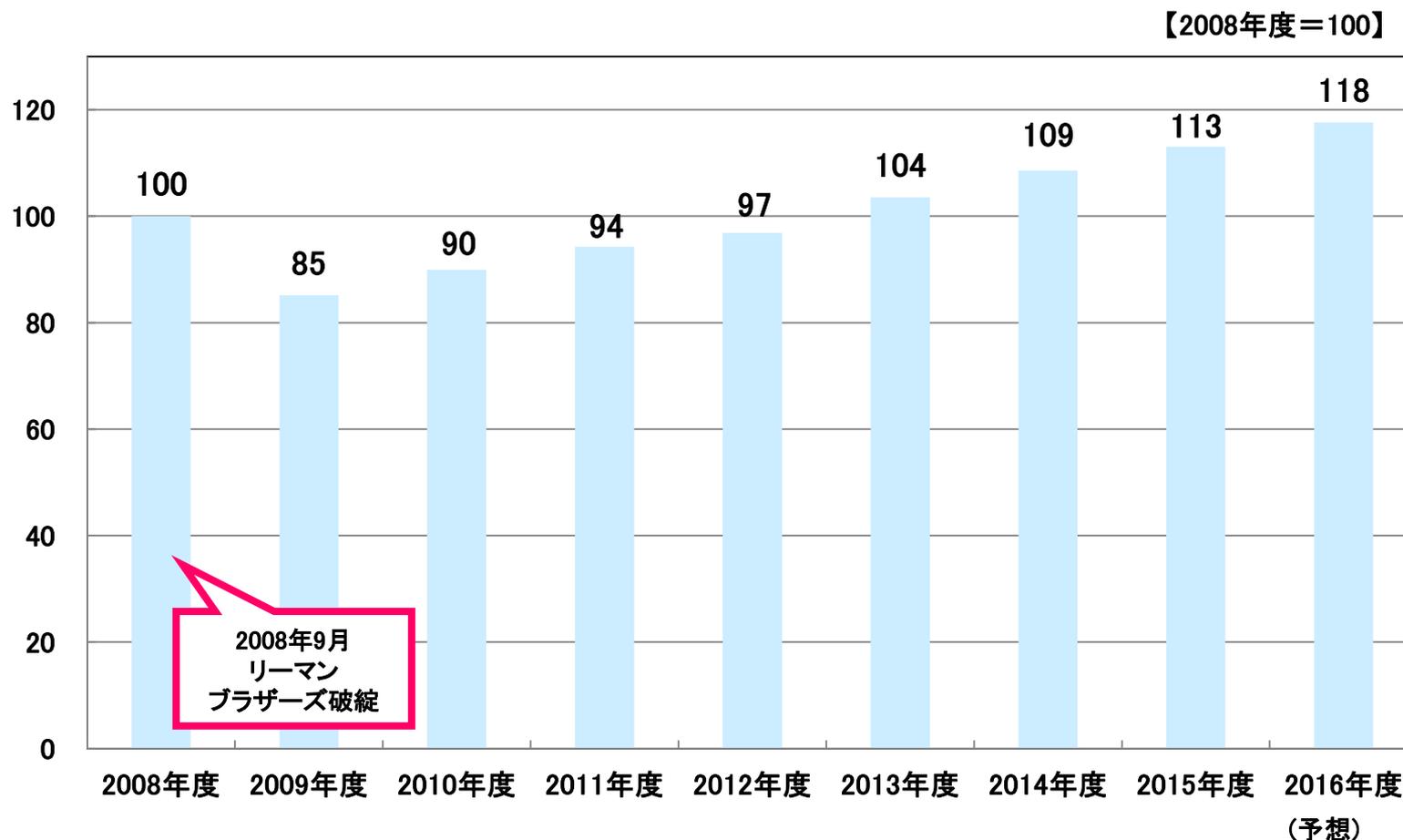


- 個人・その他
- その他法人
- 金融商品取引業者
- 金融機関
- 外国法人等
- 自己名義株式

◆所有株式数別の株主分布



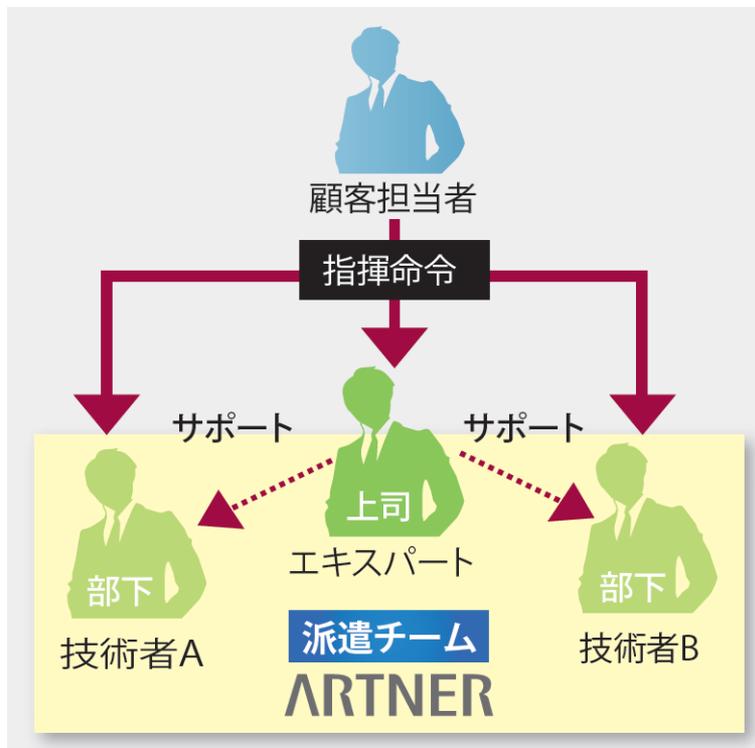
- 100株未満
- 100株以上
- 500株以上
- 1,000株以上
- 5,000株以上
- 10,000株以上
- 50,000株以上
- 100,000株以上
- 500,000株以上



※2008年度の指数値を100として算出。

※3月決算の上場している顧客企業の開示資料より集計。

◆業務遂行モデル



◆学部卒(2016年4月入社)給与比較

アルトナー	
HA事業部門	EG事業部門
26.5万円	23.4万円

※学部卒で月給**39.6万円**(時間外20時間含む)
(2014年度入社実績)の達成も可能。

※但し、新入社員研修期間中:月給16万円

技術者派遣 同業他社	大手製造 メーカー
19.5万円 ~ 23.2万円	20.3万円 ~ 23.9万円

◆本資料のお取り扱い

- ・本資料は、当社をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資を勧誘する目的としたものではありません。
- ・本資料は、正確性を期すために慎重に作成しておりますが、完全性を保障するものではありません。本資料中の予測や情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。
- ・本資料に記載された意見や予測等の情報は、本資料作成時点の当社の判断によるものであり、潜在的风险や不確実性が含まれております。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績及び記載されている将来見通しとは乖離が生じる事がありますのでご承知ください。

◆お問い合わせ先

株式会社 アルトナー 経営戦略本部 IR・PRグループ
TEL : 045 - 470 - 5663 / E-mail : ir@artner.co.jp

◆IRメール配信 登録URL

Eメールアドレスをご登録いただいた方に「投資家情報」の最新情報を配信いたします(無料)。[\[登録URL\] http://www.artner.co.jp/ir/mail/](http://www.artner.co.jp/ir/mail/)



◆YouTubeアルトナー公式チャンネル

当社のエンジニア・インタビュー動画を公開しております。
当社WebサイトTopページのバナーよりご覧になってください。<http://www.artner.co.jp/>